



早稲田大学 立川稲門会会報

2006年10月29日
第11号
発行 立川稲門会
事務局 立川市曙町2-32-3
カバ以立川302
鷺海会計事務所内
電話 042-527-6191
FAX 042-524-9570

今年の夏、早実初等部四年の長男と初めて早実の応援に甲子園に行った。それも二度でもある。大会初日の相手は大分県代表の鶴崎工高。初等部の応援席は一塁側アルプススタンドの前方一列から八列目。目の前では応援委員会のメンバーが声を囁らしてグラウンドに声援を送っている。試合は相手のエラーもあり大量得点となった。長男と肩を組み何度「紺碧の空」を



早実のプラカードを持つ女高生をばさんで木村幹事長と長男で早実初等部四年の伊志(ただし)君。八月六日、甲子園球場で

できるのでは、と強く予感した。その後は仕事の都合で甲子園に行けず、決勝戦はテレビで観戦した。これほど感動した試合はこれまで見たことがなかった。両校の凄まじい投手戦。八回に駒大苦小牧が三木君のソロアーチで1点を先制し均衡を破ったが、齋藤君の

早実の夏初優勝に酔う

爽やかな言動にも感動

冷静なピッチングで1点止まり。早実もその裏、相手の中継エラーなどでランナー3塁とし、後藤君のセンター奥深くへの犠牲フライで同点。結局、両投手の力投(齋藤君178球、田中君165球)で延長十五回引き分け再試合となった。

翌日の試合もやはり投手戦。しかし、齋藤君の球の方がわずかに冴えていた。この一戦、駒大苦小牧が優勝しても「両校、本当にお疲れ様でした、優勝おめでとう」と心の底から思ったことだろう。優勝後のインタビューで齋藤君は「西東京大会からずっと仲間の

すべての部員を信じてマウンドを守ってきた」と語り、田中君は「みんなに申し訳なかった。

との関わり。そして他者へのいたわりと感謝の気持ち、その大切なものがすべて、この二人の言葉には込もっていたと思う。私たちには、次世代を担う子供たちを育てる責務がある。目標を持たず、自分さえ良ければいい、他者の痛みの分からない、そんな子供たちが増える昨今である。しかし今年の夏、私たちの後輩は日本中に素晴らしい感動をもたらしてくれた。この子供たちがいる限り日本の未来は明るい。そして私たち大人もこの子供たちから多くのことを学んだのではないか。今年の夏、長男も早実の優勝を通して、努力することと目標を持つこと、仲間意識の大切さ、辛さと悲しさ乗り越えて夢を達成することなど多くのことを体感したことと思う。(S63社会)

125周年募金 立川、一億四千万円に 多額寄付で達成率70%超す

「ナー小澤 孝保氏で、同社は鷺海量良会長の顧問会社。

母校の一二五周年記念募金に対し、一一四、三四八、六二八円という破格の遺言贈与が、八月二十九日、立川稲門会を通して大学に寄付された。これにより、立川稲門会の募金実績は、八月十五日現在の二千七百五十万九千八百円(目標額千九百七十五万円)に対し達成率一三九・三%)から、一挙に一億四千八百八十五万円余、達成率七一八・二七%)となった。募金者は(株)小澤製線所の元オ

小澤氏は一九一八年生まれで昨年十月に逝去されたが、生前、鷺海会長に指定寄付の申し入れがあった。遺贈のほとんどは同社の解散に伴う残余財産分配金で、鷺海会長が一昨年から今度の清算終了に至るまで折衝を進めてきた懸案事項だった。小澤氏は一九四〇年専門部政治経済科、一九四二年に法学部英法科を卒業。競走部OBでもある。寄付を受けて、大学は小澤氏に「維持員」(大学募金総額一億円

以上)の称号を贈ることを決めたが、今回はこのような形式処理より、一億一千万円余もの超多額寄付に対する、白井克彦総長はじめ大学当局の現状認識と受領姿勢に注目が集まっている。一方、募金活動の最終盤にさしかかってなお目標額達成にほど遠い稲門全体にとって、この高額寄付は強い刺激になったといえる。立川稲門会にとっても、達成率八〇〇%を目指すはずみになる。全国一の達成率も、最後まで個人と法人募金に取り組んでこそ光彩を放つはずであり、有終の美をめざす工夫と努力に期待したい。(広報委員会)

教育制度どう手直し

仕組みと心、難しいバランス

志村 順子

子どもが被害者にも加害者にもなる事件が起きるたびに、身の回りにひそんでいた盲点が浮かびあがってくる。今の教育はどうなっているのか、モラルはどうして低下したのか。一つの事件が大勢の人の心を不安にさせる。生きることはいつも紙一重のところにあると思う。私は子育てはシンプルなものだと考えている。本を読んでも勉強するというのではなく、人としての生き方を人から受け継いでいくものだ。

その生き方のバトンタッチがむずかしい時代になった。近年の情報化時代での情報機器の発展はめざましく、生活をとりまくIT化の波に自分の脳や体を合わせなければならぬ。少子高齢の社会のなかで、子どもは安全の面でも管理されたり多大な期待をされ、ストレスはゲームや携帯電話

というこれまた情報機器のなかで解消させているのかもしれない。個に進むほど、また個を保てるほど、世の中は豊かになったのだ。

すべてのことが多様になり一概にはくれないが、戦後六十年を過ぎ、経済も落ち着き、占領下に作られた教育制度にもさらなる風穴が必要になってきたのではない。ここ何年間か、規制緩和と地方分権という言葉が社会のなかにしみこんできている。今年話題になった義務教育国庫負担制度は、公立学校の教職員の給与等を国が半分負担してきた制度だ。都道府

県の財政力や年々の財政状況に左右されず、安定して、また継続して給与などを確保する必要があるためだ。東京の場合は、国と東京都が財政を負担していることになり。だから人事も最終的には都が決定権を持つ。学校現場でいえば

国、都教委、市教委という縦系の規制が長年続いてきた。それに徐々に新しい挑戦をする自治体が出てきた。末端の教育現場に一番、問題のしわ寄せがきているのだ。

地方分権、権限・財源移譲といわれても、地方自治体が少人数学級を実施するには、自分たち自治体が財源を確保しなければなら

多彩な現代の教科書

厳しい採択作業
教育委員で参画

保護者の公募で立川市の教育委員になって、二年半が過ぎた。この間、一保護者では知り得なかつたさまざまなことを体験した。中でも教科書採択は、教育委員にしかできない貴重で重要な体験だ。

教科書の採択は四年に一回で、平成十六年夏に小学校、十七年夏には中学校の教科書が決まった。教師や市民が調査・検討した結果を参考にはするが、最終的には教育委員五人が、立川市の子ども達にふさわしいと思われるものを決定する。そのため教育委員は、全

い。規制緩和は一方で特色を出す。他方で格差を生む。学校選択の自由も入学者ゼロという学校を生み出すと、公立学校のありかたや、学校の自主性とは何かが問われてくる。

制度も人の心も、バランスをどうとるかである。(S40独文)

出版社の全教科の検定済み教科書を熟読しなければならぬ。教科書の内容を知ると、今どきの学校教育が改めて見えてきた。そこで立川市が採択した中学校教科書の内容を簡単に紹介したい。

中学校で初めて教科書として学ぶ英語(最近では小学校から触れる機会も多い)は、カラフルなイラストや写真をふんだんに使って楽しく学べるようになってきた。中学生、留学生、教師、家族などの登場人物の日常生活を物語形式で描き、会話部分が多いのが目につ

く。「話す」「聞く」に重点を置き、自分の体験や考えを表現する練習を多く盛り込んでいるが、幸い立川市は全校に外国人講師を配置している。効果的に学べると思う。文法は、本文中には例文だけで説明文はなく、巻末付録に日本語で詳しく説明がまとめている。内容豊かで、時事問題、留学体験や世界の物語、自然、伝統などを取り上げ、英語表現を身につけるだけでなく、世界の生活文化などを知ることが出来る。

国語も「話す」「聞く」を重視している。まず「話す時の留意点(声の大きさ、強弱、速さ、間など)」を学び、その上で、スピーチや研究発表会、プレゼンテーションで体験を積む。インタビュもパネルディスカッションもある。もちろん「読む」「書く」は基本であり、太宰治、森鴎外、夏目漱石、松尾芭蕉、ヘッセなど昔の名作も、多くはないが取り上げられている。読書になじみの薄い子どものために、読書案内として、写真入りで六十冊の粗筋を紹介している。

「書く」では、調べたことをまとめるレポートの書き方、気持ちを伝える手紙文、情報を編集する説明文や新聞記事、根拠を明らかにした意見文などさまざまな文章の書き方を練習する。

教科書には、大人にとっても必要な内容が詰まっている。皆さんも、子どもや孫の教科書を借りて開いてみてはどうだろうか。

(小林 章子・S54法)

運命変えた受験票忘れ

大打者・木次文夫の「IF」

等々木 佐々



胃の全摘出手術で、都内の慶応病院に入院していたソフトバンクの王監督(66歳)が、八月二日に退院した。元気な記者会見の様子をテレビで見て、ある野球選手が記憶の中からよみがえってきた。

木次文夫だ。昭和三十五年、早稲田大学を卒業して巨人軍に入団した。私が初めて木次選手のゲ

ムを見たのは、昭和三十四年春のリーグ戦で一試合に二本、通算四本目のホームランを打った時だ。ライナーでセンターオーバ。その飛距離には驚いた。当時の六大学野球は人気があり、この怪物に話題は集中し、ますますブク入りを楽しみにしたのを覚えている。松商学園から早稲田大学へ、そ

して昭和三十五年、期待されて巨人軍に入団した。当時の巨人軍は三十三年長島茂雄、三十四年王貞治が入団し、三十三年シーズン終了後には川上哲治が引退、翌年の一塁手は空席となった。

彼は三十四年の王選手と同じ年に入団の予定だった。もし彼が早大受験の際、受験票を忘れなかつたら、当時の水原監督は、投手として入団した王よりも一塁手としての木次を使つたのではないかと。高校、大学と長距離打者の実績のある木次が当然、一塁に入つてい

早稲田は良識の府か

総長選、抜本改革が必要

良量 鷲海

いわゆる早稲田精神あるいは在野精神というものは、社会正義や社会的公正に裏付けられたものであると私は理解している。

ところが本年六月に行われた母校の総長選挙は、その理解を見事に覆してくれた。

九八年一件(奥島孝康・法、内田満・政)、〇二年四件(白井克彦・理、津本信博・教)、〇六年十一件(白井克彦、渡辺重範・教、足立恒雄・理、岡澤憲美・社)。

この数字は、いやしくも大学にあってはならない選挙管理委員会への苦情申立て件数である。

一回で過半数に達せず決戦投票になつたといえ、今回の増え方は異常である。選挙管理委員会が二度にわたって大学にふさわしい公正で冷静な選挙を呼びかけたが、最後まで沈静化しなかった。

母校の選挙活動に関する倫理綱領はわずか三項目しかないが、唯一、大学人の良識を明文化している

るのが「利益供与による投票勧誘の禁止」である。

ところが、将来の利益供与の暗示…これが頻繁に行われた。苦情申立ての応酬が繰り返された。

選挙管理委員会への苦情申立ては外部に簡単に漏れた。ちょうど人事評価の時期にあつており、職制上の締め付け、誘導が平然と行われた。

「倫理綱領」は最低の約束ごとを定めるだけで、それに違反しても罰則はない。あくまでも大学人の良識を大前提に公正な選挙を期待しているに過ぎない。今回の選挙は、それをいいことに、なりふ

り構わぬやり得が横行した。正義も公正も良識も踏みにじった。これが我々が愛する早稲田なのか。実に情けないことである。

今こそ抜本改革が必要である。選挙管理委員会の機能は、外部の弁護士法人に委託する。そうでなければ選挙管理委員会委員には投票権を与えず、選挙活動も禁止するようにする。いずれも公正さを保つためだ。

不遜な言い方だが、我が母校の大学人に良識を持ってもらうためには、制度改正しかないと痛切に思う。(S37政経)

青雲の志抱き学院入学

58年前の極貧生活を懐しむ

古川 剛久



「我來たり見たり 征服したり」という電報を郷里、飯塚の両親に打電したのは、昭和二十三年三月だった。旧制第二高等学院の入試合格発表を見て、遠征先での勝利を

ローマに報せたJ・シーザの故事にならったものである(スケールは全然違うけれど)。

前年、旧制中学四年終了で受験した旧制佐賀高校は不合格。一敗地にまみれた私は、中学五年の卒業時には、その年の入試科目に数学がない旧制第二高等学院に的を絞った。家計を考えると浪人は許されなかった。

受験のため、昭和二十三年二月のある朝未明、筑豊線新飯塚駅から乗車、長崎本線折尾駅で東京行の特急列車に乗り替え、約三十時間後に東京到着。迎えに来てくれた兄の友人に伴われて宿舎の美校(現芸大)のラグーザ館に到着したのは、出発翌日の午後二時頃、実に三十二時間の旅であった。

当時は敗戦の災禍にうちのめされ、東京は焼土と化し、新宿駅ホームから富士山を眺めることが出来た。銀座通りには屋台が並んで

いた。お茶の水橋、聖橋の下は恰好の住居となっていた。同様に食糧は極端に乏しく、飢餓状態が続いていた。

四月入学後、知り合いの部屋に寄宿して下宿探しをしたが、大学の近くは下宿代が高くて入居できず、中学の先輩を頼って、砂川の玉水荘というアパートに居を定めた。木々の新緑がまぶしい五月になつていた。十七歳になつたばかりの少年にとっては、配給制のもとの慣れない自炊生活、遠距離通学はつらかったが、玉川上水べりを散歩しホームシックをまぎらしたものだ。

“空は屋根のかあなたに かくも静かに かくも青し 樹は屋根のかあなたに 青き葉をゆする”

七月中旬、待望の夏休みに帰郷した時は、完全に栄養失調症だった。なにしろ判事が配給の食糧を待ちあぐねて、餓死する世情だったのだからやむを得ない。あれから五十八年、図らずも立川を終のすみかと決めて三十年、再びこの地に移り住んでいる。桑畑は姿を消し、樺も次々に伐られて、玉川上水の畔にわずかに昔の面影を残すが、そこから眺める景色は今昔の感がある。時折、青年時代を懐かしみながら見影橋、金比羅橋あたりを徘徊する。

そして “年々歳々花相似 歳々年々人不同” の句を思い出すのである。(S28商)

同好会連絡先

稲酔会	古川剛久	535-0717
立川散策の会	中村克久	527-3559
ゴルフ愛好会	江藤英彦	574-8835
駅伝同好会	小林和雄	526-3245
ラグビーを愛する会	佐々木等	522-6846
稲美会	竹内雅美	523-4506

東京貿易株式会社
代表取締役 田 弘
中央区八丁堀二一三十八
TEL(〇三三)三五五七〇〇三三
(S35・法)

米田税務会計事務所
税理士 米 田 典 弘
立川市高松町三一四一四〇Tビル3F
TEL(〇四二)五二六二六三九
FAX(〇四二)五二六二六一〇
Eメール 959801hky@zeishinukai.org
(H6・社会)

学校法人 実践女子学園
理事長 高 橋 芳 樹
日野市大坂上四一ー一
TEL(〇四二)五八五一八八〇四代
FAX(〇四二)五八五一八八〇八
(S34・商)

志村エステート株式会社
取締役 志 村 順 子
立川市富士見町四一六一ー一
TEL(〇四二)五二二一〇六一一
FAX(〇四二)五二二一〇六一二
(S40・文)

夫婦で奥穂高に挑戦

危険克服し大自然を満喫

米田 典弘

八月の夏休みに妻と穂高登山に挑戦した。穂高は北穂高岳、奥穂高岳、前穂高岳、槍ヶ岳などが連なる大岩塊だが、今回挑んだのは奥穂高岳(3,190m)だ。

登山入り口の上高地はマイカー規制があるため途中で車を止め、バスに乗り換える。大正池で降り梓川沿いを歩くと、上高地の名所である河童橋や帝国ホテルなどが見え、観光客で賑わっている。しかし明神池を過ぎると観光客もめっきり減り、登山装備をした人達だけの足音で静けさが漂う。続く梓川沿いの道を野鳥のさえずりを聞きながら歩き、初日は穂高連峰のベースキャンプとなる横

尾の山小屋に宿泊した。

山小屋宿泊も登山の楽しみのひとつだ。ここはまだベースなのでお風呂まであり、石鹸は使えないが快適で、便が悪いにもかかわらず丁寧でバランスの取れた食事を出してくれる。何よりも楽しいのは、同室や夕食で隣合せた人との情報交換だ。熟練登山者は「槍、北穂、奥穂」と親しみを込めて山の名を呼び、素人の我々もその会話を混ぜてもらいながら楽しい時間を過ごした。針葉樹の香り漂う小屋前のベンチから見える星空は格別だった。



翌朝は五時起床、朝食を取り六時出発。朝の冷気が身を包み、岩登りの緊張感がみなぎる。梓川と別れ、道は徐々に岩場となる。雪渓を通過し、奥穂高と北穂高への分岐となる濁沢(からさわ)には約三時間で到着した。

北穂高、奥穂高、前穂高は半円状に険しい尾根をめぐらせているが、そのお椀のような半円状の淵が穂高連峰であり、底の部分が濁沢という地形である。このあたりは氷河圏谷で残雪が真夏でも所々に残り、登山者のベースキャンプ地として、カラフルなテントが多数並んでいる。穂高連峰の眺めも最高で、空気もひと味違う休憩所である。上の写真は、八月十二日に濁沢小屋の展望台で妻の朱美とこの山小屋で撮ったものだ。

濁沢から先は急に岩の段差が大きくなり、両手を使う岩場の連続場所もあり、斜度もかなり急である。午後からは雷雨となった。妻は日頃の運動不足がたたってか疲労困憊で、一時下山も考えたが、何とか宿泊する山頂付近の山小屋にたどり着いた。

(H6社会)

六月初旬の旅

ピレネー賛歌

伊藤 暢子 (S35文)



ピレネー山脈はフランスとスペインの国境をなし、東西430°。南北100°あり、最高峰は3404m。山々の上部は褶曲の荒々しい岩山。高原には花があふれ、森の谷筋には村がひっそり佇み、家族経営の小さなホテル滞在が心地よい。



中学時代に、学校に移動劇団がやってきて「ピレネーの森の物語」というのを上演した。この時からピレネーという響きが私の頭から消えたことはない。50数年の月日が流れ、今年6月はじめて訪れ、あの頃の少女に戻ってしまった わ・た・し。

多摩川源流へ王手 笠取山めざし古里～奥多摩

中村克久

今年二月二十八日の第一歩。肌寒い風が吹く多摩川の河口にある〇・〇〇キロメートル標識を探し当てた時の感動を忘れられない。それはこの大河の出発点としてあまりにも小さく、堤防に密やかに埋められていた。「多摩川の源流をたどる会」の初日は、この標識を正式な出発点とし、川崎駅まで歩いた。以来、毎月の第三火曜日に南武線で前回の終着駅まで行き、そこから上流に向かって歩く。四カ月目の五月三日にはついに立川駅に到達した。ウオーキングをしながらの会話は最も楽しいことの一つだ。故

東京西部を貫く多摩川は、山梨県境の笠取山を源流として大田区羽田沖までの全長一三八キロ、標高差一九〇〇メートルの大河である。稲門会の立川散策の会の有志でこの多摩川を一年かけて歩き通そうという話が出たのは昨年の暮れだった。

山に行くといつも大自然の素晴らしさに感動し、帰る先が排気ガスとコンクリートの街だと思ってしまう。東京に戻ると嬉しいニュースが待っていた。母校・早稲田実業の甲子園での大活躍だった。

大好きハワイで至福の夏休み

良量 海鷲

九月四日から、私にとっては長い八日間の夏休みをハワイで過ごした。ホノルル四泊、ヒロ三泊という、稲門会活動で働きづめだったほうびのつもりである。ホノルル(オアフ島)訪問は、私が大学時代に所属していたナレオ・ハワイアンズの創部六十周年とナレオ稲門会創立十周年を記念するルアウパーティーに参加するためだ。

早稲田大学から白井克彦総長と井上秘書課長を招き、日本からはナレオ稲門会関係の一九九人、現地ではハワイ稲門会一五人、ハワイ三田会九人、現地バンド関係二人の総勢一八七人だった。参考までに私の関係者は、亀井裕子夫妻を含む一人である。

午後六時にロイヤルハワイアンホテルで始まったパーティーは、露

の20年来の友人アランと新婚日本人妻ミチコさんと



イアンズに、現地の著名バンドであるアラン・アカカとジ・アイラランダース(アラン・アカカの父親はハワイ州選出の上院議員)、フー・ダンサーその他多くの人たちが出演した。最後は全員手をつないで

木茂(S38政経)が総合司会し、梁瀬陽太郎(S38理工)とナレオ・ココナッツPトリオ、白石信会長(S30法)率いるナレオ・ハワイ

アロハ・オエを合唱。ワイキキビーチに押し寄せるさざ波の音に耳を傾け爽やかな風と好天を愛でながら、生涯の思い出に残る素晴らしいルアウパーティーだった。宴の途中では、白井総長にナレオ稲門会から記念事業募金一〇〇万円(累計三八〇万円)の目録を贈呈した。

ヒロ(ハワイ島)の滞在は、私がバーマネット・メンバーになっているハワイ・ジャパニーズ・セクター(HJC)主催の第四回ミュージカル・ノスタルジアへの参加である。

このコンサートは、ハワイ大学ヒロ校の講堂で十日に行われた。戦前戦後、ハワイの日系人社会で活躍した歌手にボランティア出演をお願いし、HJC建設の資金集めのために一肌脱いでもらった。HJCの前身、ハワイ島日本人移民資料保存館(故大久保清さんが初代館長)を、ハワイ大学の本田正文・准教授がNPO法人化して

趣味三昧で多忙の日々

稲門会活動で地元と接触

原 健一



引退後は時間を持て余すのではと懸念したが、予想以上に忙しく毎日を通じていることに自分でも驚いている。何かに追いかけていないと人間怠惰になると、一六〇〇字のエッセイを週一本仕上げることに、NHKの俳句講座を自分への宿題として課した。

しかし、これは杞憂だった。今ではエッセイにも俳句にも十分な時間が掛けられないほど、友人達との交流と趣味に多忙な毎日を送っている。立川に五十七年も住みながら、今までの経歴から、早大

と富士通の仲間との交流が中心だったが、最近では立川稲門会の仲間との交流が増え、地元を見直す契機ともなっている。

ゴルフは立川高校同期生、早大クラスメート、富士通の同僚先輩達との定例会のほか、親しい仲間とのプレーも多い。これに立川稲門会の仲間とのプレーも加わり、月五回を超えたこともある。

俳句は稲門会の中村信さんを会亭とする「猿若句会」に加えてもらい、二つの句会に顔を出しており、下手なりに楽しんでる。

一方で中村克久さんが音頭を取る第二火曜の「立川散策の会」と第四火曜の「多摩川の源流をたどる会」には万難を排して参加している。地元との接触の少なかった小生を稲門会が地元結び直して、心豊かな日常をもたらしてくれた。多謝である。(S34経済)

理事長を務めている。私は保存館のころからのサポーターの一人だが、当会の錦織文良副会長もその後加わり、現在に至っている。ヒロには、五日のパーティーから引き続き、早稲田大学総長室の後藤由美子さんと法学部の直井孝予さんも合流。現地の方のご案内で海抜四二〇〇年のマウナケア山頂を訪れ、すばる天文台を見学。美しい日没と満点の星とはこれなのか、というスターゲイジングも体験した。私にとって三十回以上のハワイ訪問だが、今回もまた実に楽しい旅だった。(S37政経)

楽しい「立川おはやし保存会」

佐竹茂市郎

今年も「立川の夏祭り」が終わり、町は夏の終わりを告げています。私は二十年ほど、錦みよし会(錦町三・四丁目町内会)のおはやしに携わっています。最初は長女が発足したばかりのおはやし部に入会した(途中でやめてしまいました)ため、親として何かお手伝いすべきだと思いついたのがきっかけでした。

練習の場では熱心に、八王子追分はやし連の師匠と二人の指導者が小学生の会員を指導しました。子供達は家に帰っても練習し、瞬間に上達していきました。発足早々に手弁当で指導に当たってくれた師匠が亡くなったり、子供達の退会などで手探りで続けてきたおはやしですが、三年前から一期生が部長を務め、充実した活動をしています。私も数年、部長を務めました。おはやしの演奏ができないことや指導力不足のため、部員のメンバーには迷惑をかけました。今後、成長を見つけていきたいと思っています。

現在、たちかわでは「立川おはやし保存会」が組織(来年二十周年)され、独自に活動しているおはやし連十四団体が加入し、毎年十一月三日に「おはやし大会」を開催しています。各団体が一斉に集い、練習の成果を披露する唯一の場となっています。各団体も色々な悩みを抱えて活動しているようですが、皆が真剣に取り組んでいますので、お祭りの際や街ではやし連を見かけたらぜひ声援してやって下さい。(S51社学)

に住むに至った当時の事情、そして人生観など、道中、問わず語りの雑談の中に光る人生訓のあれこれ。毎回、四時半ごろには立川に戻り一時間ほど居酒屋で反省会。これがまた格別で、疲れと酒でほろ酔いになって家路につく。「ほろ酔いになって見上げる月は友の顔」

九月二十六日には奥多摩むかし道を歩いた。十月二十三、二十四日には美しい紅葉の笠取山登山で目的を達する。立川から青梅までは、季節の良い春先につなぐ予定である。散策の会は現在メンバー二十二名だ。(S36政経)



舞の初春 師匠春柳 小春花柳
吟詠「静御前」をしつとりと
=2006年1月21日、一門のおどり初めから

島根・鳥取の歴史に興味

山陰シンポジウム四日の旅

長野 長正



昨年十一月末、広報の錦織先生が主宰する「山陰の風土と人とアムニテイ」を研修するシンポジウムに参加し、三泊四日の島根・鳥取旅行を満喫した。神話は「記紀」風土記が主たるものだが、風土記は勅令で各国がその報告として朝廷に提出したもので、自ずと書き方、内容も異なる。大和王権の神話、天孫降臨の話は朝鮮にもあるそうで、海彦、山彦兄弟の話は中国洞庭湖あたりにあるとか、日本の神話は中国の殷か周の時代の西暦前四百年頃がその起源と

念願だった出雲大社内部の特別見学を終えて(左から六人目) 二〇〇五年十一月二三日

以下は、あるドジな郵便局強盗の話である。私は三年前に女房に会いそをつかされて、女房は子供を二人連れて出ていった。その後いろいろ仕事を転々としたが食い詰めて、前の女房の家に転がりこんだ。飯を食うときも、女房や子供とはまったたく話をしない。気づまりで面白くないが、どうしようもなかった。

ドジな郵便局強盗の話

そのうちに持ち金もなくなってきたのでむしゃくしやし、泥棒でもやろうという気になった。自転車で乗って、どこをねらおうかと近所を見て回った。すると、家から五分くらいの閑静な住宅街に小さな郵便局があるのに気づいた。中に

思われる。出雲は遺跡から三万年前の原始時代、隠岐には石器時代に黒曜石が産出して広く交易も行われ、縄文、弥生期には朝鮮から鉄、稲も伝えられ玉も作られて非常に高度の文化が栄えた。各地の豪族は大形の環壕を有し、大和には見られない突出型墳丘墓を作つて争乱に備えていた形跡も見られる。これは二世紀頃の倭人伝から卑弥呼のころで、倭之国は今でも確定されていないので出雲の人は「出雲こそ」と思っているようである。大国主命の国譲り神話は、神武王権が奈良高原から南東の大和三山に達する平定の戦略にそっくりである。〇〇大神や〇〇主命の称号を下贈し、あるいは大社を造つて安堵し、次々と征服を繰り返していったのは三世紀と思われる。すると出雲に進出した神は大和

袋をもつていった。これは顔にかぶるとちようど覆面強盗のようになる。景気づけに、近所の自動販売機でワンカップの酒を買い、グイといっぱいやつた。郵便局の陰で、袋をかぶつて強盗らしくし、包丁を手にしてドアをぱつと開けて窓口の女に「金を出せ」と言った。女は、十万円ぐらいの札束をつかんで出したので、それを驚つかみにして逃げた。自転車で乗って逃げたが、後から郵便局の女が「ドロボー」といって追いかけてきたので、あわててひっくり返り、反対方向から来た車の人に捕まってしまった。懲役三年に処す。(榎本 信行・S33法)

王権とは別の神で、神武天皇の先祖に当たる神かもしれない。中国系の天照大神一族と朝鮮系の出雲族は、鉄と稲を盛んに作り始めた縄文後期には、すでに出雲で手を結んでいたのではないかと。佐太社は八百万神を司るイザナギの尊他十二神が祀られている大社で、年二回神在祭を行い、セグロ海蛇を先導として日本中の神が集まるのを神迎神事としている。出雲は八の字が好きな国だ。八雲立つ、八束の命八岐大蛇、八百万の神とともに、八は我々の心の中にもあり、日本中がまだ神話の中に生きているのかもしれない。出雲が大和、奈良時代にわたつて大和朝と深い交わりをしていたのは勾玉や鉄器ばかりでなく、文化文明からみても野見宿禰が土師臣として古墳や陵の埴輪を作つたりし、この子孫が菅原道真で、石見には物部氏が移住して氏神を祀つた物部神社もある。

島根半島は五千年前までは島だった。四千年以後に海岸が埋まって出雲平野が出来て半島を形成したもので、三千年前に三瓶山が大噴火してその土石流が出雲と杵築平野を拡大して海が宍道湖となつてしまった。さらに、島根半島は四つの山塊の連なりで出来ており、四度の国引きで美保の地が出来たとの神話は三千年の歴史の事実なのである。出雲の神話の数々は、今でも生きているものがとても多いのが不思議である。(S32理工)

ビザラお届け! 榎ピーエスエス 尾上 研 児 (H2・理工)	立川駅のお弁当 株式会社エヌ・アール・イー中村亭 代表取締役 中 村 克 久 (S36・政経)	立川市曙町二一六一〇 TEL(〇四二)五三三三三三(代) FAX(〇四二)五三三三三三(代) Eメール haplana@dream.com	代表取締役 中 村 信 (S38・文)	人材育成・社員研修 ㈱オフィス広瀬 代表取締役 廣 瀬 俊 夫 (S39・文)	立川市西砂町一六六一一 TEL(〇四二)五三二二六八七 FAX(〇四二)五三二二六八七	村野税務会計事務所 税 理 士 村 野 俊 輔 (S57・政経)	立川市柴崎町二四一九村野ビル2F TEL(〇四二)五三二二八九五〇 FAX(〇四二)五三二二八九五一	多摩中央葬祭株式会社 代表取締役 森 山 勇 (S37・政経)	立川市錦町四一八一三 TEL(〇四二)五二五一一二三〇 FAX(〇四二)五二五一一〇四三四
---	---	--	---------------------------	---	---	--	--	--	---

街頭演奏のマナー調整 文化表現支えるNPO結成へ

鈴木一廣

立川市が関係する団体に「市民活動センター」たちかわがある。私は先日、その団体主催の「市民おもしろ大学」でストリートミュージシャンについての講演要請を受け、一時間ほど話す機会があった。



路上演奏について、ミュージシャンたちにインタビューする鈴木一廣さん(右端)

ご存知のように、立川駅前のデツキでは毎夜、ミュージシャンが演奏している。多い時には十を超えるミュージシャンが演奏するこ

ともある。初心者レベルからプロ級の演奏まで、聴衆はそれなりに楽しんでる。

私はそうした情景を文化の表現

の一つとして捉え、日常的に行われることを願い、演奏する彼らに応援しようと「立川まちおん」というグループを立ち上げた。現在は共鳴する市民や演奏家たちで四十人ほどになっているが、さらに発展させ、いずれはNPOにしたいと考えている。

路上やデツキでの演奏問題は、それが道路交通法に抵触することだ。デツキは歩行者専用道路なので、使用に当たっては警察の許可が必要だが、それはほとんど不可能だ。通行の妨げになることが理由だが、一部問題を起すバンドがあり、彼らを快く思っていない警察が許可を与えるわけがないのだ。演奏家のマナーが問われている。また音楽が騒音としか聞こえない人から通報があると、取り締

まらざるをえないこともある。こうした問題はあがあるが、かつてアンケートを取った時に、八〇%が歓迎、あるいは容認という結果が出ており、これらの声をバックに路上演奏がなんらかの形で市民権を得られるようこれからも活動を続けていきたい。

うれしいことは、来年の成人式のアトラクションに出演してほしいと「まちおん」に依頼があったことだ。なにかと物議をかもしている講演を止め、同世代のミュージシャンにメッセージを送ってもらうことになった。いろいろ準備を進めているが、おそらく実現するだろう。来年の成人式には、私もスタッフで出席しなくては、思っている。(S38法)

立川三人娘が登場 フラダンスで盛況

恒例の納涼パーティー



立川三人娘(前列の3人)とイムア・フラスタジオの皆さん

八月三日、立川稲門会恒例の納涼パーティーを開催した。今年のフラダンスは市川いづみさんが主宰するイムア・フラスタジオの皆さん、トーマン・ワヒネズ(志村順子・小林晃子・川端博美)の特別出演と、ハア・ヘオ・ハワイアンズ(裕寛・江藤英彦・駕海量良)の友情演奏もあって盛りあがった。なお今年もアサヒ飲料社長の岡田正昭さん(元立川稲門会、S43商)から樽生他の寄贈と、伊藤勲会員(S36西洋史)からの寄付があった。(広報委員会)

実力者・中村さん優勝

二十回記念春のコンペ

第二十回の記念コンペを、五月十七日(水)、昭島市の昭和の森ゴルフ場で開いた。新鋭の参加がなく、ベテラン中心に十四人の参加という記念大会にしてはやや寂しかったが、最高齢の肥後昭一さん以下が熱戦を展開した。

今回からハンディキャップを改訂したが、実力者ぞろいの中から中村克久さんが抜け出し、トータル81、ネット70で栄えある記念大会の優勝者となった。準優勝は小木曾夏樹さんの83、72だった。三位以下は次の通り。③吉川義明(85、72)④長野長正(95、73)⑤肥後昭一(106、76)⑥広瀬

町田さん二度目優勝

秋季ゴルフコンペ

優勝 町田弘(トータル85、ネット70)②ベスグロ(2)吉川義明(87、75)③江藤英彦(87、76)④広瀬俊夫(100、77)⑤佐々木等(105、77)⑥小木曾夏樹(88、79)⑦長野長正(101、79)⑧波多野進(110、80)⑨古川剛久(97、81)⑩原健一(100、81)⑪中村克久(93、85)⑫大岩泰世(93、86)⑬裕寛(123、95)⑭九月二〇日、昭和の森GC(S36法・江藤英彦)

優勝 町田弘(トータル85、ネット70)②ベスグロ(2)吉川義明(87、75)③江藤英彦(87、76)④広瀬俊夫(100、77)⑤佐々木等(105、77)⑥小木曾夏樹(88、79)⑦長野長正(101、79)⑧波多野進(110、80)⑨古川剛久(97、81)⑩原健一(100、81)⑪中村克久(93、85)⑫大岩泰世(93、86)⑬裕寛(123、95)⑭九月二〇日、昭和の森GC(S36法・江藤英彦)

TOKYO大樹法律事務所

井土 榎本 信行 (S33・法)

新宿区新宿一〇一〇三 太田紙興新宿ビル八階 TEL(〇三三)三三五四一九六六 FAX(〇三三)三三五四一三三二四

鷺海公認会計士事務所

公認会計士 鷺海 量良 (S37・政経)

立川市曙町二一三二一三 サンパレス立川三〇二号 TEL(〇四二)五二七七一六九一 FAX(〇四二)五二四一九五七〇

社会保険労務士法人 木村事務所

代表取締役 木村 辰幸 (S63・社会)

労働保険事務組合 経営者多摩福栄会 立川市杉川五七七七 ウェスタリヤ第3階TEL(〇三三)TEL(〇四二)五三五一三〇七三 FAX(〇四二)五三五一三〇七三

宮野司法書士事務所

司法書士 宮野 孝雄 (S57・社学)

建築設備設計事務所 三井企画株式会社

代表取締役 小林 和雄 (S47・理工)

立川市錦町四一五一五 TEL(〇四二)五二六一三二四五 FAX(〇四二)五二二一八二一八

電子制御機器の開発設計 株式会社 エルテック

代表取締役 長野 長正 (S32・理工)

東大和市中原一三三三三 TEL(〇四二)五六六一〇三三三 FAX(〇四二)五六六一〇三三三

第33回定時総会

- 一、日時 平成十八年十月二十九日(日)
- 二、会場 立川グランドホテル
- 三、会費 懇親会費八千円、年会費三千円

- 四、会次第
 - 総会 四時半(受付四時)
 - 平成十七年度事業活動報告
 - 平成十七年度会計報告
 - 平成十七年度監査報告
 - 平成十八年度事業計画
 - 代議員会報告
 - 商議員会報告
- ◇ 広報委員会報告
 - 特別講演 五時半
 - 和田 宏氏『没後十年 司馬遼太郎を語る』
 - (和田氏 S40 弘文社『は文藝春秋社の元司馬担当編集者』)
 - 懇親会 六時半

商議員の互選による早稲田大学評議員選挙(定数21)が四月十七日開票され、駕海量良・立川稲門会会長(S37政経)が、東京ブロック最高点(一七三票)で再選された。東京の最高点は同時に全国トップである。前回は二位だった。任期は四年。

駕海会長はこの四周年、大学の経営健全化について提言を続けると同時に、創立一二五周年記念募金にも率先して努力を傾注してき

駕海会長

母校の評議員にトップ再選

「母校を愛する心は学生の時から涵養すべきだ」というのが日ごろの持論で、評議員会ではこれを繰り返し提起して大学側に警鐘を鳴らし続け、いまや知る人ぞ知る「名物演説」となった。日常の稲門会活動では、ヒューマンで公正な情熱姿勢を貫き、文字通り稲門会の牽引役。

うち四十二人は学外から選任されるが、このうち二十一人は評議員会が推薦する評議員、あとの二十一人は全国十の選挙区で各地区の商議員が互選で選出する。商議員は全国で千人、うち三百九十三人が東京区に所属だ。

評議員の各地区定数は東京七、南関東四、北関東、近畿各二で、北海道、東北、北陸・甲信越、東海、中国・四国、九州・沖縄は各一である。

ビッグな朗報二題

(広報委員会)

高橋副会長

実践女子学園の理事長就任

高橋芳樹副会長(S34商)が、四月一日付で実践女子学園の理事長に就任した。同日の理事会で十三人の理事の互選で選ばれた。

実践女子学園は、一八九九年に下田歌子が創立した女子教育界の名門で、中高(渋谷区)、短期大学、四年制大学(文、人間科学、人間社会の三学部)と大学院(日野市)で六二六〇人を擁する本格的な女子教育機関である。六二〇

〇人余の内訳は、中学九七〇人、高校九一〇人、短大九〇〇人、大学三三四人、大学院四〇〇人で、この陣容を維持し充実させていく学園経営の最高責任者である。少子化の波に洗われながらも、学生の定員数は確保を続ける堅実経営だが、今後ますます厳しくなる状況を見据えて、そのかじ取りが注目される。

早稲田大学では、三十七年の在籍の大半を経理畑で手腕を振ってきた。その経歴を買われて八年前から実践女子学園に参画した。業務と会計の監査を通じて、理事会では常に斬新な提案を続けてきた。豊富な経験と冷静で的確な判断と処理、けれん味のない姿勢に期待が集まっている。

なお実践女子大では、奥島孝康・前総長が学外理事。非常勤で人間科学部の教壇にも立っている。

事務局便り

毎年このことだが、年一回のこの事務局便りを書いてみると月日の経つ早さを実感する。

▼事務局便りに私ごとを書いて恐縮だが、あらためてこの一年を振り返るため平成一七年度(平成一七年九月〜一八年八月)の事業活動報告を見ると、立川稲門会関係だけで総会、役員会、近隣稲門会や同好会など私が参加した集まりは五十二回である。事業活動報告には七十回を優に超える。

加えて本職の業界では三多摩の責任者と事務局の仕事がある。もちろん本職の方のウエイトが高いのは当たり前だが、その上で、その合間を縫って立川稲門会事務局の仕事をする。もちろん逆の場合も多いが、道理で忙しいわけだ。

これを苦にせずできるのは、亀井裕子副幹事長ほか私の事務所スタッフの存在が大きいが、なんといつても会員の皆さんに喜んでいただけるのが嬉しいし、やはり早稲田が大好きだからだ。

▼本号の一面記事で報告したように、母校一二五周年記念事業募金の立川の実績は一億四千万円を超え、目標達成率は七一・八%と全国トップとなった。しかし、八月の一億一千四百万円は超破格の募金のため、立川稲門会のカウントになるもの、大学側の要望で、最終的には募集期間末の二〇〇八年三月まで別枠扱いになった。

▼一方、平成一七年一〇月から始まった慶應義塾の創立一五〇周年記念事業募金は、目標額二五〇億円に対し、確度の高い情報による

と、すでに一〇〇億円を達成した模様だ。安西塾長は目標額を五〇億円上積みして三〇〇億円にする構想だ。

さすが慶應義塾だ。募金期間は早稲田より三年短い五年である。

▼ご存じのように会報は継続広告スポンサーである会員の温かいご支援によって制作費をまかなっている。これまでの十三人に、本号から町田弘(昭と35法)と米田典弘(昭と6社会)、高橋芳樹副会長(S34商)から新たに申し出をいただいた。深く感謝申し上げたい。

▼会報の編集・制作では、今回も錦織文良広報委員長、中村信広副委員長をはじめ広報委員の皆さんにお世話になった。また隠れた協力者として中村信さんのご子息、大(はじめ)さんの存在も大きい。心からお礼申し上げます。

▼母校は来年に建学一二五周年を迎える。母校と会員の皆さまにとつて幸せ多い年となるよう心からお祈りしたい。(駕海量良)

啓事

広報委員会 錦織文良(委員長)
中村信(副委員長)・志村順子(幹事)
藤嶋子・米田典弘・長野長正・原健一
康瀬俊夫・駕海量良
制作・アート 中村大(アイ・イー・ピー多摩)

21世紀の後輩を支援しよう

母校への愛校心が
新しい早稲田をつくり
ます
創立125周年記念事業募
金に
ご協力をお願いします
お申し込みは事務局
(042-527-6191)か
直接、大学
(03-3204-0125)へ